



日本ナザレン教団 熊本ナザレン教会牧師 中出 牧夫 さん

主は魂を生き返らせてくださる

「子どもの頃は、牧師にだけはなると決めていました」。現在、日本ナザレン教団熊本ナザレン教会の牧師を務める中出牧夫さんは少年時代をそう振り返ります。北海道生まれの北海道育ち。父が牧師というクリスチャンホームに生まれた中出さんは教会と隣り合わせの牧師館(牧師家族の居住施設)で暮らしていました。「教会には人があふれるほど集まっていた。牧師館も教会学校に使われていて、昼夜、知らない人が食卓にいるんです。いつの間にか自分の鉛筆や消しゴムが使われていることもあって、家族よりも教会の人たちが大切にされている気がして、嫌だったんですね」。

洗礼を受けることもなく、教会にも行かなかったという中出さん。しかし「勉強そっちのけでバスケットボールに夢中だった」という大学2年生の時に転機が訪れます。「ある時、ばったり会った高校時代の友人が最近、聖書を読んでいるというんです。『文学として面白くて読み始めた』という彼から『クリスチャンとは何なんだ』と問われて何も答えられなかった。ドキッとしましたね」。帰宅した中出さんはほとんど開くことがなかった聖書を開きます。「詩編23編『主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い／魂を生き返らせてくださる』という箇所を読んだ時に、『今まで自分の魂は死んでいた。それを神が甦らせてくださる』と感じました。『このままではいけない。自分の歩むべき道はここではないか』と思い立って教会に通い始め、洗礼を受けたのです」。

神様の愛を伝えたい

神に何をささげるのか

洗礼を受けた中出さんの生活は一変。教会学校の先生としての役割を担うようになります。「自分は神に何をささげることができるのか?」という思いを抱くようになった中出さんが牧師になる決意をしたのは33歳になった時でした。妻子を持ち、会社務めをしていましたが、「我が人生こそを神様にささげよう」と一念発起。2年間の短大神学科、3年間の神学校生活を経て牧師の道が開かれました。

2000年、北海道芦別市上芦別町のナザレン教会で牧師を務めていた中出さんは、遠く離れた熊本にある熊本ナザレン教会に派遣されます。「最初の3年は夏の暑さに慣れなくて、北海道が恋しかった。今は熊本が第二の故郷ですが」と笑います。「赴任してすぐ、熊本市内の教会の牧師先生が訪ねて来られて『朝禱会』に誘われました。朝禱会とは教派を超えたキリスト教の祈りの活動。熊本での歴史は55年に及び、週に1回、県内の教会関係者やクリスチャンが集まっています。『現在では熊本YMCA本館を会場に毎週土曜日の早朝に御言葉に聞き、熱心な祈りが献げられています。YMCA関係の人たちともお会いできるいい機会ですね』。

クリスマスに向けて

長年にわたる熊本YMCAとの関わりの一つに「市民クリスマス※」があります。熊本YMCAが事務局を務め、毎年12月にチャリティーコンサートや講演会を開催。中出さんは熊本への赴任直後から実行委員としての役割を担ってきました。「YMCAが事務局なので、宗教・教派に関係なくクリスマスを楽しむことができるのです。市民クリスマスには、クリスチャンのみならず、普段教会に来られない方にもぜひ来ていただきたいですね」と語ります。「私自身、YMCAとのつながりで様々な出会いがあり、神様からの恵みをいただきました。熊本の地では、教会とYMCAが相互に協力し合ういい関係が築けています。教会の牧師一人ができることには限界があるという中出さん。「だからこそYMCAには人と人をつなげ、交わる機会をつくる存在であってほしいです」。

クリスマスに向けてメッセージを伺いました。「日本人にとってクリスマスは、お祭りですね。本来のクリスマスも実は、お祭りなのです。しかしその中身が何かというのを知らない人が多いかもしれません。私は、イエス・キリストの十字架と復活があってこそ、クリスマスがあることを伝えていきたいです。すべての人のために命を捨ててくださったイエス様の愛を伝えることが私の願い。クリスマスには、それぞれの教会で礼拝が行われます。これを機会に教会へ行ってみてください。かつて私の生き方が変化したように、神様の愛にふれる中で自分の生き方をみつけていただけたら嬉しいです」。



2021年度市民クリスマス

※市民クリスマス2022はクラリネット奏者の柳瀬洋さんらを招き、12月10日(土)13:30から熊本白川教会で開催します。 図 熊本YMCA学院 Tel 096-353-6393

Pickup

「だご汁をつくったよ」
ぶどうの木幼稚園
収穫感謝祭



水前寺幼稚園
わいわい秋まつり

みんな完走!
熊本五福幼稚園
マラソン大会



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

1月22日 Sunday

チャリティープログラム 16 17

チャリティー
×
楽しむ

熊本YMCA年末募金の一環としてチャリティープログラムを開催します。スポーツ体験やゲーム、バザーなど、拠点ごとに趣向を凝らした内容です。詳細は随時Webサイトでご案内します。

回 1月22日(日)

場 みなみセンター、ながみ
ねファミリーセンター、むさ
しセンター

図 Tel 096-353-6391



1月30日 Monday

熊本バンド147周年記念行事 16

キリスト教
×
祈祷

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じこの教を日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟147周年を記念して、早天祈祷会を開催します。

早天祈祷会

回 2023年1月30日(月)

6:30~7:30

場 花岡山山頂 熊本バ
ンド奉教之碑前

奨励「キリストの弟子」
小副川幸孝さん(九州
学院 院長)

※ライブ配信をいたし

ます。感染拡大状況により、現地での参加をお控えいただく場合があります。現地参加の可否は1月13日以降に熊本YMCAのWebサイトまたはお電話にてご確認ください。

図 熊本バンド147周年記念行事実行委員会

図 実行委員会事務局 熊本YMCA

Tel 096-353-6397



熊本バンド記念行事Webページ▲

ウィンターキャンプ2022

3 4

キャンプ
×
体験

日帰りから4泊5日まで、この冬もキャンプが盛りだくさん。お友だちやリーダーと一緒に楽しみましょう。詳細はWebサイトをご覧ください。



おすすめキャンプ

	日程	対象
はじめて雪遊び 1泊キャンプ	1泊2日 2023年 1月8日(日)~1月9日(月)	年中~年長
冬のガールズ キャンプ	2泊3日 2023年 1月5日(木)~1月7日(土)	年長~ 小学生(女の子)
北海道ダイナミック スキーキャンプ	4泊5日 2023年 3月26日(日)~3月30日(木)	小学生・ 中学生

熊本YMCA臨時会員大会の開催について

熊本YMCA 会 長 吉本貞一郎
総主事 光永 尚生

2022年12月16日(金)午後7時~8時の日程で熊本YMCA臨時会員大会を開催いたします。

今大会の主な内容は、熊本YMCA会則の変更と、「熊本YMCA創立75周年に向けて」と題した総主事報告です。

熊本YMCAは会員組織としてボランティアの皆さま、プログラム参加者の皆さま、職員の協働により会員運動を行っています。この度、多くの会員の皆さまのご意見を反映し、会員活動をさらに活性化するため、常議員会の役割、常議員の定員および任期の変更を考えております。

常議員会のもと特別委員会として発足した会則改定委員会で約1年半協議を重ね、10月に開催された第497回常議員会で承認され、維持会員の皆さまへ提案させていただくことになりましたのでお知らせいたします。

加えて2023年度には熊本YMCA創立75年を迎えます。1948年の設立以来、多くの方々のご協力によって会員活動を継続できたことに、心から感謝申し上げます。節目の年を迎えるにあたり、熊本YMCAがさらに皆さまから愛され、世界を見つめ、地域に根差した社会教育関係団体となれるよう、これからの中期的な「ビジョン(方向性)」を皆さまにお伝えいたします。

年末のご多忙の時期かと存じますが、皆さまのご出席、よろしくお願い申し上げます。よきクリスマスをお迎えになりますようにお祈りしています。

※常議員:任意団体としての会員の代表であり、熊本YMCAの会員活動における最終決定機関

図 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

回日時 場会場 図内容 図参加費 図定員 図参加条件 図持ち物 図対象 図主催 図締切 図申込 図問合せ 図その他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.13

総主事 光永 尚生



YMCAのフェスティバルは なぜ楽しいの ~待ちわびるころ~

熊本YMCAでは、スイミングフェスティバル、サッカーフェスティバル、ダンスフェスティバル、体操フェスティバルを開催しています。今年は、3年ぶりにフルバージョンのスタイルで、保護者にも参観していただきました。スイミングフェ

スティバルは、10月にみなみセンターのプールで行いました。11月にはサッカーとダンス、体操フェスティバルを、益城総合運動公園にて初めて同日に開催しました。延べで600名以上が参加され、「熊本YMCAフェスティバルの日」となりました。あちらこちらで、YMCAのユニフォームを着た子どもたちが闊歩し、秋晴れの下でにぎやかで楽しい1日となったようでした。

YMCAでは、フェスティバルを発表の日と位置付けており、日頃の練習の成果を見ていただきます。私たちYMCAは、子どもたちの精神(こころ)、知性、身体の調和のとれた全人的な成長を願っています。子どもたちは、真剣に日頃の技を披露してくれますから、保護者も真剣に見

ていただけるわけです。発表の準備を行うリーダーの皆さん、子どもたちを送り出していただく保護者の皆さん、そして何よりも子どもたち自身が、この日を待ちわびているようでした。

今年も、12月になりクリスマスの時期を迎えますが、11月27日から始まる待降節(アドベント)に、クリスマスを待ちわびる、わくわくした気持ちと通じているように想います。楽しさや、フェスティバルを待ちわびる皆の気持ちは、大切な価値を創るのではないのでしょうか。

フェスティバルが終わると、もうすぐクリスマスです。今年も本当のクリスマスを皆さんと共に待ちわび、平和なひと時となるように祈っています。在平平安

R | E | P | O | R | T

[10月14日⇒ 11月10日]

社会貢献

YMCAフィランソロピー協会 年次総会を開催

11 17

県内の企業と企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会が10月14日(金)、KKRホテルで年次総会を開催しました。

熊本YMCA総主事で協会の事務局長を務める光永尚生さんによる挨拶に続き、2022年度事業報告、決算、会計監査の報告と2023年度の運営方針、予算と幹事企業の提案がなされました。運営方針案ではSDGsの推進や、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、企業間連携を強化することが謳われ、すべての議案が議決されました。

年次総会に続き「今、あきらかになる熊本城の真

実〜熊本地震復興の足跡をたどる〜」をテーマに講演会を開催。熊本城調査研究センターの嘉村哲也さんが緻密な復興作業の様子を紹介し、参加者からは「熊本に住む人間として、熊本のシンボリックな建物である熊本城の構造や、復旧について改めて知ることができて有意義だった」「美しくたくましい熊本城の復興した姿を楽しみに待ちたい」などの感想が寄せられました。

対面での開催は3年ぶり。互いに自己紹介をする時間も持たれ、会員企業相互の親睦が深められました。

職員 辻健太郎



チャリティー

3年ぶりの集合開催 前進祭

11 17

熊本YMCA創立20周年を記念してスタートした前進祭が54回目を迎えました。コロナ禍のため2019年度以来、熊本YMCA本館ではじめての集合開催。10月30日(日)、熊本YMCA学院の学生、YMCA子どもプログラムの在籍生、保護者、ボランティア会員、地域の皆さんなど、幅広い年代の来場者でにぎわいました。

例年の食バザーに代わりキッチンカーが登場。ケバブサンドやクレープに行列ができました。YMCA学院健康スポーツ科によるトレーニングジム体験、

フリスビーストラックアウトのコーナーや建築科による立体的な装飾品「ヒンメリ」づくり体験など、学科の特徴を活かした出店が見られたほか、恒例の「大鯛どっこい」も復活。ステージ発表では、留学生による歌とダンスが披露され、会場は大きな拍手に包まれました。

前進祭で得られた収益は、ボランティアリーダー育成や災害支援活動、国際協力、専門学校の奨学金などに活用されます。

職員 熊本四季子



国際交流

熊本YMCA学院

日本語科と医療秘書科学生が交流

4 10

11月10日(木)、熊本YMCA学院日本語科の初級IIクラス33名と医療秘書科の1年生21名が熊本YMCA本館で交流授業を行いました。日本語科の参加者の多くは今年の4月に来日した学生で、日常会話はゆっくり話せば内容が理解できるレベルです。このような日本語学習者と効果的に会話ができるように、医療秘書科の1年生は事前学習として「やさしい日本語」の講義を受けたうえで交流授業に臨みました。

当日は、10グループに分かれて自己紹介やフリー

トークをしながらグループ全員の共通点を見つけるタスクに挑みました。「全員がiPhoneユーザ」、「全員ピンクが好き」、「全員がスポーツをしている」などの共通点が見つけることができました。

同年代の学生同士、会話は自然に盛り上がり、授業終了後には連絡先を交換しました。今後も交流が深まり、異文化理解、草の根の国際交流が広がっていくことを願っています。

職員 尾道一幸



医療秘書科が日本医師会認定養成校に

熊本YMCA学院

日本語科が在籍管理優良校に

熊本YMCA学院医療秘書科は日本医師会認定の医療秘書養成校となりました。認定に先立ち行われた視察の中で日本医師会常任理事の釜范敏さんから、「医療秘書の役割は大きい。新たな日本医師会養成校の申請は、ありがたく心強い。地域の医療機関で活躍する人材の育成に期待します」とメッセージが送られました。

2023年度から日本医師会が定めたカリキュラムを実施し、医療現場のニーズに沿った医療秘書として重要な役割を担う人材を育みます。



日本語学校は、前年の学生管理の状況に応じて出入国在留管理局から「適正校」、「非適正校」に分類されます。本学院は、2022年10月18日付で「適正校(在籍管理優良校)」の認定を受けました。これは今年から試験的に運用されたもので、3年連続で適正校であることなどが条件になります。在籍管理優良校になると、留学ビザの申請が簡素化され、取得しやすくなります。

今後も職員一同が常に学生に寄り添い、適切な学生指導、学生支援に努めていきます。



元気いっぱい!スポーツフェスティバル

11月20日(日)、益城町総合運動公園でサッカーフェスティバル、ダンスフェスティバル、体操フェスティバルを開催。子どもたちが、日頃の練習の成果を発揮しました。

サッカー



ダンス



体操



わたしと聖句

日本バプテスト連盟東熊本キリスト教会
三上 充



創世記3章2～3節

女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけません」と神様はおっしゃいました。」

多様で豊かな解釈の可能性

「女」の答えは、創世記2:16-17で神が「人」(後に「女」の創造の際に「男」となる存在)に命じた内容と異なっています。神は「人」に対して、「触れてもいけない」とは命じていません。この違いは何なのか、当然さまざまな解釈が可能です。ユダヤ教の伝統の中には、「この違いは、『男』が、神から命じられた内容に勝手に『触れてもいけない』という内容を加えて生じた」とする解釈もあります。

創世記2:18-22において神は、「女」を「男」の「ふさわしい助け手」として創造されました。「ふさわしい助け手」と翻訳されているヘブライ語「エゼルケ・ネグド」は、本来の意味では「少なくとも対等の存在」を指し示す言葉です。神は本来、「女」と「男」を対等な存在として創造されました。しかし、「男」は「女」を対等な存在とみなさなかった。「男」は恩着せがましく・上から、「女」を「自分が守ってあげなくてはいけない存在(保護、監督)ではなくてはいけない存在」とみなし、神から命じられている以上の内容を勝手に追加して伝えた。

右の解釈に立つと、神の思い(計画)を最初に踏み違えて歪めた(最初に罪を犯した)のは、「男」です。「男」女どちらが先に罪を犯したのか?なんて問いを追究していくことは不毛ですが、聖書を丁寧に読むと、創世記2～3章を右のように解釈することもできます。聖書は実に、多様で豊かな解釈に開かれている書物です。

次号は1・2月合併号として、1月下旬に発行します。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2022年度基本聖句

イザヤ書 40章31節

主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることはなく、歩いても疲れぬ。